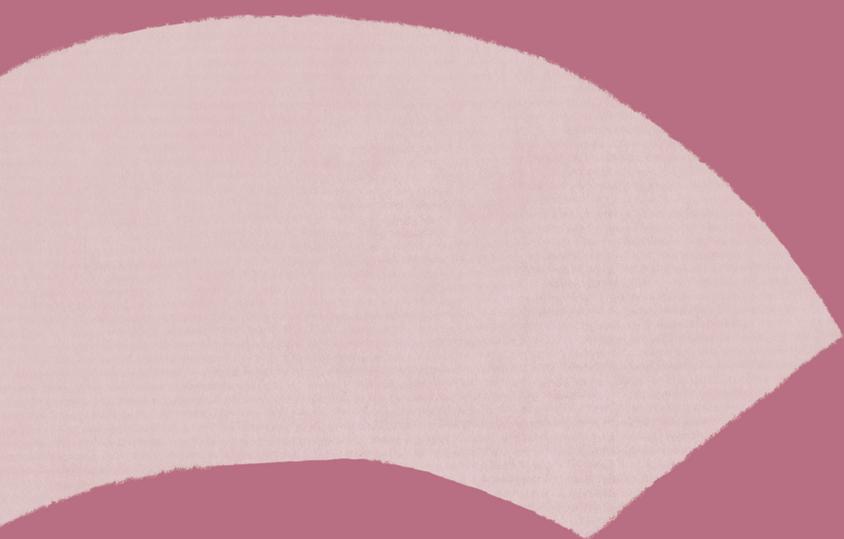
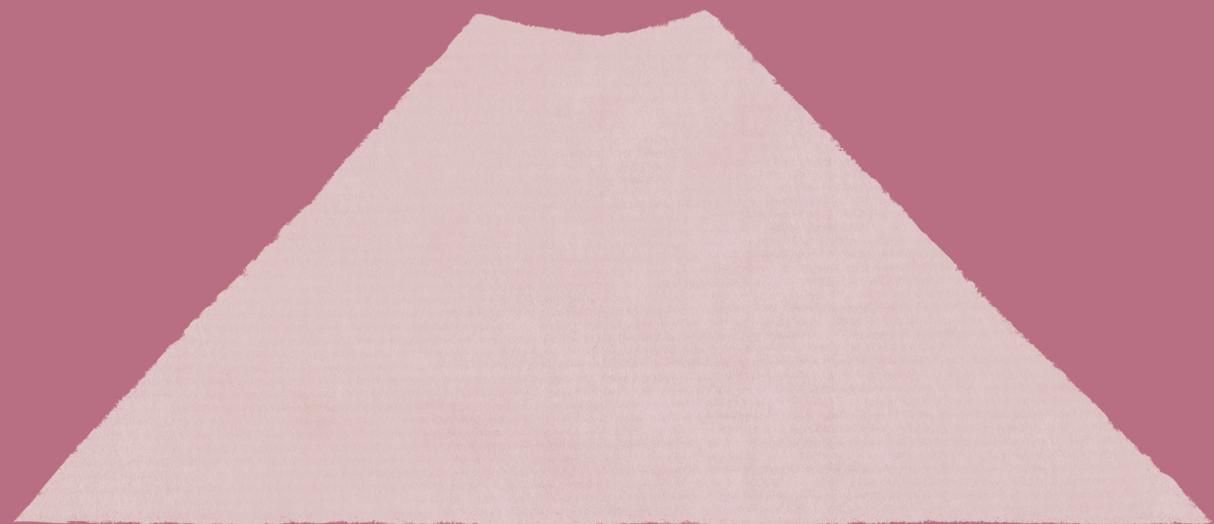


2 コロナ禍における祭り・行事



コロナ禍における京都市内の祭り・行事

令和2年(2020)1月、国内ではじめて新型コロナウイルスへの感染者が確認されて以来、複数回にわたる緊急事態宣言の発出にともなって、全国の祭り・行事が中止や例年と異なった形態での実施へと追い込まれた。地域のまとまりの象徴であり、地域住民に親睦の機会を提供してきた祭り・行事のあり方が、現状の密集・密接を回避するという新型コロナウイルス感染症対策とは、根本的に相容れないためである。

多くの祭り・行事が伝わる京都も例外ではなく、令和2年度(2020年4月～2021年3月)の1年間で、市内に存在する国・府・市で文化財に指定・登録された無形民俗文化財において、例年なら実施されていた97件の祭り・行事のうち、80件が中止もしくは規模縮小での実施となっている。とくに、地域住民をはじめ、観光客などの観覧者を多く集める祭り・行事は中止や規模縮小を余儀なくされており、国内外から多くの観光客を集める祇園祭が早々に神輿渡御と山鉦巡行の中止を発表するなど、多くの祭り・行事で慎重な対応が見られた。

規模を縮小して実施するにあたっては、祭り・行事によってさまざまな方法が取られており、関係者の苦悩が垣間見られる。京都五山送り火では、お盆にお帰りになられた先祖の霊(お精霊)をお送りするという本義を守り、送り火を執行する保存会会員の密接を回避するため、それぞれ点火箇所を大幅に減少させての実施となった。あわせて、市民や観光客の密集を避けるため、テレビ局などと連携して「送り火はお家から」の呼び掛けを行っている。西ノ京瑞饋神輿では、先に挙げた祇園祭のように巡行は

令和2年度 市内の祭り・行事実施状況(国・府・市の指定登録のみ)

No.	名称	文化財	実施時期	対応
1	大田神社の巫女神楽	市登録	2月10日	実施
2	上賀茂さんやれ	市登録	2月24日	実施
3	大田神社の巫女神楽	市登録	2月24日	実施
4	大田神社の巫女神楽	市登録	3月10日	実施
5	嵯峨大念仏狂言	国指定	3月15日	中止
6	嵯峨お松明	市登録	3月15日	中止
7	嵯峨大念仏狂言	国指定	4月5・11・12日	中止
8	大田神社の巫女神楽	市登録	4月10日	実施
9	やすらい花(今宮, 川上, 玄武)	国指定	4月第2日曜	中止
10	蹴鞠	市登録	4月14日	中止
11	建仁寺四頭茶礼	市登録	4月20日	中止
12	壬生狂言	国指定	4月29日～5月5日	期間縮小 →中止
13	千本えんま堂大念仏狂言	市登録	5月1日～5月4日	延期
14	賀茂競馬	市登録	5月5日	中止
15	藤森神社駈馬	市登録	5月5日	中止
16	一乗寺八大神社の剣鉾差し	市登録	5月5日	中止
17	大田神社の巫女神楽	市登録	5月10日	実施
18	やすらい花(上賀茂)	国指定	5月15日	中止
19	嵯峨祭の剣鉾差し	市登録	5月第4日曜	中止
20	大田神社の巫女神楽	市登録	6月10日	実施
21	鞍馬竹伐り会	市登録	6月20日	中止
22	京都祇園祭の山鉦行事	国指定	7月	規模縮小
23	大田神社の巫女神楽	市登録	7月10日	実施
24	松尾大社御田祭	市登録	7月第3日曜日	中止
25	京都の六斎念仏(壬生寺 孟蘭盆 精霊 迎え・壬生六斎念仏講中)	国指定	8月9日	中止
26	京都の六斎念仏(清水寺 孟蘭盆・上鳥 羽橋上鉦講中, 京都中堂寺六斎会)	国指定	8月10日	規模縮小
27	大田神社の巫女神楽	市登録	8月10日	実施
28	京都の六斎念仏(孟蘭盆: 千本六斎会)	国指定	8月14日	規模縮小
29	花脊松上げ	市登録	8月15日	中止
30	鉄仙流白川踊	市登録	8月15日	中止
31	松ヶ崎題目踊・さし踊	市登録	8月15・16日	中止
32	京都五山送り火(大文字送り火)	市登録	8月16日	規模縮小
33	京都五山送り火(松ヶ崎妙法送り火)	市登録	8月16日	規模縮小
34	京都五山送り火(船形万燈籠送り火)	市登録	8月16日	規模縮小
35	京都五山送り火(左大文字送り火)	市登録	8月16日	規模縮小
36	京都五山送り火(鳥居形松明送り火)	市登録	8月16日	規模縮小
37	市原ハモハ踊・鉄扇	市登録	8月16日	中止
38	京都の六斎念仏(上御霊神社 例大祭: 小山郷六斎保存会)	国指定	8月18日	中止
39	上高野念仏供養	市登録	8月19日	規模縮小
40	京都の六斎念仏(干菜山光福寺: 小山 郷六斎保存会)	国指定	8月20日	中止
41	京都の六斎念仏(浄禅寺 六地藏めぐり: 上鳥羽橋上鉦講中)	国指定	8月22日	規模縮小
42	京都の六斎念仏(地藏寺 六地藏めぐり: 桂六斎念仏保存会)	国指定	8月22日	実施
43	京都の六斎念仏(上善寺 六地藏めぐり: 小山郷六斎保存会)	国指定	8月22日	実施
44	京都の六斎念仏(高山寺 地藏盆: 西院 六斎念仏保存会)	国指定	8月22日	中止
45	京都の六斎念仏(地藏寺 六地藏めぐり: 桂六斎念仏保存会)	国指定	8月23日	中止

中止としたものの、技術継承のために瑞饋神輿の製作と公開を行った。六齋念仏ろくさいねんぶつや上賀茂紅葉音頭もみじおんどといった民俗芸能では、演目数を減らしたり、踊りを中止したりといった対応が見られた。とくに京都の六齋念仏保存団体連合会では、行政とも情報共有しながら独自のガイドラインを作成し、各保存会に感染症対策の基準を示すといった取組みを行っている。

そのようななか、祭り・行事の継承に向け、インターネットなどを用いた新たな取組も見られた。そのひとつとしては、千本えんま堂大念仏狂言保存会による、動画共有サイト「YouTube」での「千本えんま堂大念仏狂言」の配信が挙げられる。千本えんま堂大念佛狂言保存会では、平成19年(2007)ごろからYouTube上に動画をアップしていたようであるが、令和2年5月の本公演こそは秋に延期として中止したものの、その秋公演では昼公演・夜公演ともに50席限定、立ち見お断りとして観客数を制限しながら、ライブ配信に取り組んでいる。その後、緊急事態宣言の発出期間中であった令和3年の節分奉納狂言会、5月本公演も無観客、ライブ配信で実施している。

令和3年9月30日、京都府下における緊急事態措置が解除されたが、第6波への備えが必要とされるなど、まだまだ楽観視できる状況ではない。実際、例年であれば秋の祭り・行事シーズンであるが、中止や規模縮小しているところが相次いでいる。引き続き、各保存会の対応状況等の情報を収集し、効果的な助言や情報提供ができるよう努めていきたい。(今中崇文)

46	京都の六齋念仏(阿弥陀寺 地藏盆:嵯峨野六齋念仏保存会)	国指定	8月23日	中止
47	久多宮の町松上げ	市登録	8月23日	中止
48	小塩の上げ松	府登録	8月23日に近い土曜日	中止
49	京都の六齋念仏(右京ふれあい文化会館 竹林禅寺 水子地藏供養:京都中堂寺六齋会)	国指定	8月24日	中止
50	久多の花笠踊	国指定	8月24日	中止
51	雲ヶ畑松上げ	市登録	8月24日	中止
52	広河原松上げ	市登録	8月24日	中止
53	広河原ヤッサコサイ	市登録	8月24日	中止
54	京都の六齋念仏(吉祥院天満宮 夏季大祭:吉祥院六齋保存会)	国指定	8月25日	中止
55	京都の六齋念仏(長岡天満宮 夏祭り:久世六齋保存会)	国指定	8月25日	中止
56	修学院大日踊・紅葉音頭	市登録	8月27日	中止
57	京都の六齋念仏(梅宮大社 嵯峨天皇祭:梅津六齋保存会)	国指定	8月30日	中止
58	京都の六齋念仏(蔵王堂光福寺 八朔祭法楽会:久世六齋保存会)	国指定	8月31日	中止
59	一乗寺鉄扇	市登録	8月31日	中止
60	大原八朔踊	市登録	9月1日に近い土曜日	中止
61	京都の六齋念仏(松尾大社 八朔祭:嵯峨野六齋念仏保存会)	国指定	9月6日	中止
62	大田神社の巫女神楽	市登録	9月10日	実施
63	上賀茂紅葉音頭	市登録	9月第1か第2土曜	規模縮小
64	烏相撲	市登録	9月9日	中止
65	大原野神社の神相撲	市登録	9月第2日曜日	実施
66	西ノ京瑞饋神輿	市登録	10月1日~5日	規模縮小
67	御香宮祭礼獅々	市登録	10月9日前後の日曜	中止
68	京都の六齋念仏(伏見稲荷大社 講員大祭:京都中堂寺六齋会)	国指定	10月10日	中止
69	大田神社の巫女神楽	市登録	10月10日	実施
70	梅ヶ畑平岡八幡宮の剣鉾差し	市登録	10月10日に近い日曜	中止
71	平岡八幡宮の三役相撲	市登録	10月10日に近い日曜	中止
72	三栖の炬火祭	市登録	10月12日の直前の日曜	中止
73	粟田神社の剣鉾行事	市登録	10月体育の日	中止
74	北白川高盛御供	市登録	10月体育の日の1週間前	中止
75	壬生狂言	国指定	10月体育の日を含む土日月	中止
76	八瀬赦免地踊	市登録	10月体育の日の前日	中止
77	山国隊軍楽	府登録	10月第2日曜日	中止
78	吉田木瓜大明神の剣鉾差し	市登録	10月第2日曜日	中止
79	西院春日神社の剣鉾差し	市登録	10月第2日曜	中止
80	矢代田楽	府指定	10月15日に近い土曜日	中止
81	時代祭風俗行列	市登録	10月22日	中止
82	鞍馬火祭	市登録	10月22日	中止
83	木野愛宕神社の烏帽子着	市登録	10月23日	中止
84	岩倉火祭	市登録	10月23日に近い土曜	中止
85	嵯峨大念仏狂言	国指定	10月26日に近い日曜	中止
86	千本えんま堂大念仏狂言	市登録	11月3日	中止
87	神泉苑狂言	市登録	11月第1金曜から3日間	中止
88	大田神社の巫女神楽	市登録	11月10日	実施
89	真如堂の十夜鉦	市登録	11月5日~15日	中止
90	嵯峨大念仏狂言	国指定	11月第2日曜	中止
91	大田神社の巫女神楽	市登録	12月10日	実施
92	おけらまいり	市登録	大晦日~元旦	実施
93	大田神社の巫女神楽	市登録	元日	中止
94	木遣音頭	市登録	1月2日	中止
95	久多の山の神・お弓	市登録	1月3日	実施
96	日野裸踊	市登録	1月14日	中止
97	大原上野町おこない・お弓	市登録	1月成人の日	中止
98	小山の山の神	市登録	2月9日	実施
99	上賀茂さんやれ	市登録	2月24日	実施
100	大田神社の巫女神楽	市登録	2月24日	実施
101	嵯峨大念仏狂言	国指定	3月15日	中止
102	嵯峨お松明	市登録	3月15日	中止

新型コロナ禍(COVID-19)における地蔵盆の開催実態

① はじめに：多世代が居合わせる場としての地蔵盆

地蔵盆は毎年8月24日を中心に開催され、子供の健やかな成長や地域の安全を祈願する行事として近畿圏を中心に広く親しまれている。地蔵盆では読経や数珠回し等の儀礼に加え、福引や子供の遊び等を通じて多世代の人びとが集い、思い思いに一日を過ごす。このことから近年、コミュニティ形成の場としても地蔵盆は再評価され、京都市では2013年に「京都をつなぐ無形文化遺産」第3号に登録された。

新型コロナウイルスの感染拡大により、京都府では4回目の緊急事態宣言が2021年8月20日から発令された(当初は9月12日まで、その後、9月30日までに延長)。発令を受け、町内会・自治会は、地蔵盆を含む地域行事について、開催の可否の判断を含め、対応に苦慮することが予想された。そこで、京都大学大学院人間・環境学研究科前田研究室では、昨年度(2020)に引き続き、①地蔵盆のコロナ禍における開催実態や近年の開催状況を把握し、②今後の地蔵盆のあり方の検討に資する情報発信を行うことを目的とした調査を行った。

② 調査の概要

2021年7月上旬から8月上旬にかけてのアンケート調査、および地蔵盆当日の現地調査を行い、地蔵盆の開催状況を把握した。アンケート調査は京都市内の地蔵盆開催者(地蔵盆の世話役、町内会・自治会役員)を対象として、WEBアンケートと紙のアンケート票を用いて行った。WEBアンケートは京都市の関連部署・機関(京都市文化市民局地域自治推進室、同・文化財保護課、(公財)京都市景観・まちづくりセンター)のHPやSNS上で公開した。アンケート票は京都市文化市民局地域推進室を通じて市内14の区・支所に各30部を配布し、地域の地蔵盆開催者に回答を依頼した。質問内容は、今年度の地蔵盆の開催状況(開催の可否とその理由、開催する場合の方法、地域で話し合った内容)に加え、近年(昨年、一昨年)の地蔵盆の開催状況(実施した行事、使用した場所、参加人数、継続する上での懸念や工夫等)である。有効回答数はWEBアンケートが31件、紙のアンケート票が121件、計152件であった。回答の対象となった地蔵盆の所在地は図1の通りである。

また、地蔵盆当日の現地調査は、地蔵盆を開催する場合、開催が集中すると推測される8月21日(土)、22日(日)に行った。京都市の都市計画上の都心エリアである職住共存地区(通称「田の字地区」)を対象として、各日の午前中に延べ18名の調査員が調査対象範囲内を巡回し、地蔵盆の開催状況(開催の様子に加え、準備・片付け中、開催・中止の予定を含む)および地蔵の祠の飾り付けについて目視および住民への聞き取りによって把握した(図2)。

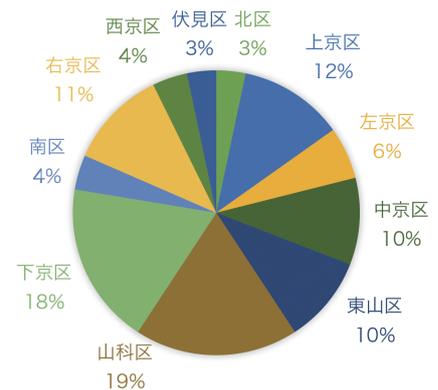


図1 アンケートへの回答があった町内の所在区の内訳 (n=152)

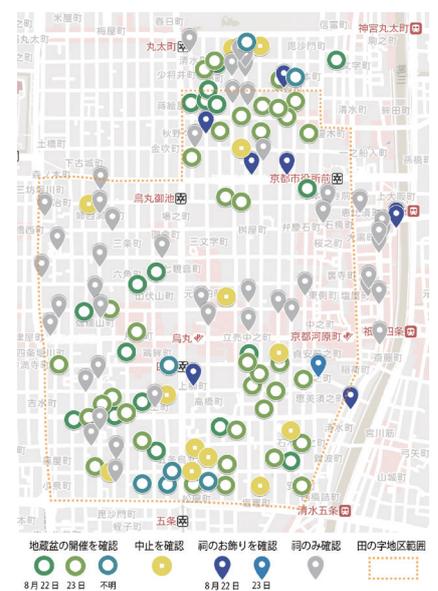


図2 地蔵盆当日(8月21日・22日)における現地調査の結果

3 地蔵盆の開催の可否とその理由、開催の方法

アンケート調査への回答によると、2021年度の地蔵盆について「開催する」が約44%、「開催しない」が約41%、「未定・検討中」が約8%、「その他」が約7%であった(図3、いずれも回答時点での意向・予定)。「開催する」「開催しない」がほぼ同数という結果は、昨年度の調査結果とほぼ同じであった。

地蔵盆を「開催する」際の対策や工夫について、国や自治体が指定する感染予防策(いわゆる「三密」の回避)や手指の消毒に加え、行事の内容の見直しや簡略化、参加者の限定といった回答が多くみられた(図4)。「開催する」場合も、コロナ禍以前の例年通りのやり方ではなく、時間を短縮し、行事も僧侶による読経や子供へのお菓子の配布などに限定し、また、町内によっては役員だけで寺院に参拝し、町内の住民は集めないで実施する、という回答があった。

「開催しない」「未定・検討中」の理由(図5)としては、「国が示す適切な感染防止対策がとれない」という回答が最も多く、また、「住民や周囲の理解が得られない」、「(3度目の)緊急事態宣言中に市から町内会・自治会活動における感染予防等が要請されていた」(ため早々に中止を決めた、話し合いが遅れている)、という回答が多くみられた。また、開催したいが、「コロナ対策をした上で開催できる場所が町内にない」、「子供どうして距離を保ち続けることが難しい」といった理由からやむを得ず断念したという意見もみられた。「地蔵盆をもともとやめるつもりだったため」という回答も一定数あった。

これに加え、自由記述欄に、地蔵盆の今年の開催について町内で話し合った内容や住民から寄せられた声等について記述してもらった〔別表〕。

それぞれの町内で、「近隣の学区・町内や住民の意向を把握した上で開催の可否を判断する」、「開催する場合も行事の縮小や祭壇のしつらえの縮小・簡略化を行う」など、様々な配慮や試行錯誤をしている様子が窺える。特に子どもの数が多い町内では、子どもたちとその親たちの夏の思い出づくりのために何とか開催したいが、安全の確保の問題もあり、葛藤している様子がみられる。コロナ禍の夏が二年目ということもあり、昨年の経験や感染対策を踏まえ、昨年は中止だったが今年は開催、昨年よりも行事を増やして開催など、できること徐々に増やしている町内もみられた。一方、新型コロナウイルス感染拡大以前から、少子化・高齢化等により行事の規模縮小や簡略化を行っていた町内もあり、そのような町内ではほぼ例年通りの形で地蔵盆を開催している場合もある。また、子供の減少や町内会役員の負担感の増加から、地蔵盆の存続や行事の継承が危ぶまれるという声も聞かれた。

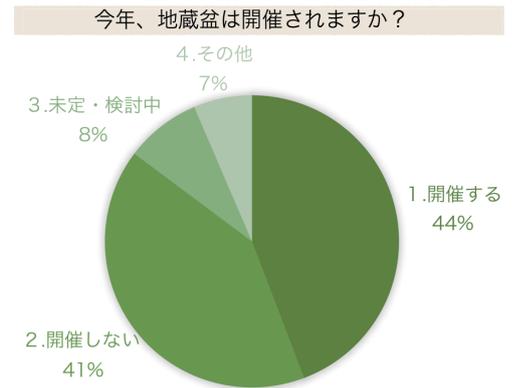


図3 2021年度地蔵盆の開催予定 (n=152)



「その他」の内容の例
 ・ 行事は中止、世話役と町会長がお寺にお参りし、住民には粗供養を配る。
 ・ 密集を避けるため、通りごとに来場時間を設定する。
 ・ お地藏さん祠前での僧侶の読経のみとする。
 ・ 役員3名のみで、お寺さんの読経のみ実施。そのほか、子供には図書券とお菓子を配付する。
 ・ 会長・副会長で各家庭をまわる。
 ・ お寺さんの読経は役員のみ参列。子ども達には、せめてアイスクリーム配りや、ジュース配り、マクドのチケット配布などはしたいと思っています。密にならない為、競ごとに時間をわけて、お菓子をもらいに来てもらうようにします。

図4 「開催する」場合の工夫 (n=152)



「その他」の内容の例
 ・ ワクチン接種が、行き届いていない状況のなかで不安を感じる。
 ・ 自治連合会から言われているため町内会員でも意見が割れていて検討中である。
 ・ 感染が収束しきっていない中での開催はリスクがある。
 ・ 学区の夏祭りが中止になったことにならない、中止を決定した。
 ・ 子供が少ない為、地蔵盆は30年以上開催していない。
 ・ コロナ感染の状況が把握しづらく開催可否の判断を迷っている。
 ・ 長期的視点から考える事が重要で、現在の状況の中で開催を急ぐ必要性はないから。
 ・ コロナ以前から町内会役員の負担が大きい。小学生、子どもの数が減少している。

図5 「開催しない」「未定・検討中」の理由 (n=152)

④ 地蔵盆における感染防止対策と空間利用

8月21日、22日の現地調査で確認した55件(21日：18件、22日：37件)とアンケート調査で把握した7件をあわせると、調査対象地域では計62件の地蔵盆の開催を確認した。その他、地蔵盆の開催を確認できなかったが飾り付けや供え物等をしている地蔵の祠を9箇所確認した(調査員が訪れた時間帯以外で地蔵盆を開催していた可能性がある)。今年度は地蔵盆を開催する場合も時短・簡略化であるため、町内の掲示板等にも開催の案内を掲示していない場合が多く、地蔵盆を調査員が発見することが困難であった。上述したもの以外にも他の日程で開催された地蔵盆もあったと推測される。

時短・簡略化による地蔵盆における空間利用の例を示す。まず、祠に安置した地蔵の飾り付けや簡易な祭壇の設置を行い、そこに僧侶を招いて読経し、住民も距離を保ちながら参拝するという形がみられる(写真1)。以前、筆者らが「こじんまりとでも持続する地蔵盆」に分類したタイプの開催方法がコロナ禍の地蔵盆において多くの町内で採用されていた。ただ、なかには例年この形で開催しており、コロナ禍でも一部の行事の中止はあるものの、ほぼ例年通りの形で地蔵盆を開催したという町内もあった(写真2)。

一方、例年に比べて簡易な形であるが祭壇を設置し、そこに地蔵を祀り、仏僧を招いて読経、参拝をするという方法もみられた。町内に祠がない場合や道路上に祭壇等を設置する空間的な余地がない場合、このような対応がとられる場合がある。

また、少数ではあるが、感染防止対策を行った上で可能な限り多くの行事を実施している事例もみられた。三密対策やマスクの着用、手指の消毒、検温などの感染防止の徹底を町内の住民に呼びかけ、数珠回しや福引、輪投げといった行事を開催した。例年は町内の複数箇所を会場としてスイカ割り、BBQなども行っている場合がある。町内に半屋外の空間(町家のミセノマや戸建て住宅のガレージ)や自由に使える屋外空間(マンションの前面広場、駐車場、公園等)がある場合、感染対策がとりやすく、開催できる行事の幅も広がる(写真3)。



写真1 祠の前に簡易な祭壇を設置し、住民は距離を保ちながら祈る



写真2 例年通り、祠の前で読経のみを実施



写真3 感染防止策を行ったうえで、できる範囲で行事を実施

5 おわりに：コロナ禍でも発揮された地蔵盆の柔軟性と今後への懸念

地蔵盆の開催の可否について、アンケートでは回答者全体のうち約44%から「開催する予定である」という回答が得られ、「田の字地区」を対象とした現地調査では地蔵盆の開催を計55件、確認できた。新型コロナウイルス禍において地域の行事が軒並み延期・中止となっている状況において、上述した地蔵盆の開催状況を表す数字は、地蔵盆が危機的状況においても高い継続性を有していることを示すと捉えられる。また、行事の簡略化や規模の縮小といった対応によって感染防止対策を行っている様子は、地蔵盆が変化や危機に対して臨機応変に対応する柔軟性を発揮していることを示唆する。一方で、地蔵盆の開催の可否をめぐる、子供や高齢者の安全の確保や感染を不安がる住民からの声などを受け、住民間のコミュニケーションが困難な状況に陥っている様子がアンケートの自由記述からも窺えた。逆に、時短・簡略化といった工夫により、どのような形であれ地蔵盆が開催に至った町内に関しては、町内会のリーダーシップや住民間のコミュニケーションがある程度機能しているとも捉えられる。地蔵盆の開催の可否が各町内コミュニティの対応力の一つの指標になっているとも言える。一方、コロナ禍での地蔵盆が2年目を迎え、例年行っていた行事や地蔵盆の開催自体が困難である状況がつづいていることへの不安の声も寄せられており、地蔵盆の継承が困難になっていくことが懸念される。

アンケート調査結果の全文は京都市のHP(自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト)上で公開しています。



謝辞

調査にご協力頂いた住民の皆様、京都市各区役所支所のまちづくり推進担当、京都市文化市民局地域自治推進室、京都市文化市民局文化財保護課、(公財)京都市景観・まちづくりセンターの担当者に感謝申し上げます。(前田昌弘)

別表 地蔵盆について町内で話し合った内容(アンケート自由記述)

子供たちの楽しみのためにも、できる範囲で実施	前年度と同じく、テントを張るのやめる。お地蔵さんの飾りつけはしない(例年、祠の前の空地にテントを張り、祠よりお地蔵さんを出し、段飾りでお花、お菓子、果物をお供えていました)。今回は子どもに500円位のお菓子を渡す。お下がりと、全世界に調布(お菓子)を配る。防災の水1ℓを2本、全世界に配る。 全くやらないというのは心情的にも落ち着かないので、とりあえずはできることばやるという点は一致しました。昨年との違いはほとんどありませんが、子どものおもちが昨年は無く、子どものお祭りの可哀そうだという意見が出て配布することにしました。 昨年は開催しなかったため、今年も感染防止のため中止を検討していた。子供会の役員さんから子供達が楽しみにしているので、開催したいとの意見が出た。そのため話し合いをもって行事内容、参加者を限定して開催する予定です。しかし、今後の状況によっては中止する事もあります。
感染への不安の声をふまえて中止を決断	年度初めの町内総会において話しあった。高齢者が非常に多く感染すれば大変である、かき氷等の飲食が発生するの危険であるということから、安心・安全が確保できない為、中止としました(昨年中止していません)。 役員総会においてコロナ禍の最中、住民の安全を十分に確保できないため中止を決定した。 自治連合会より中止の要請があったのでそれに従う。町内では特に話し合いはしてない。
町内のさまざまな意見を踏まえて決断	今年は開催したいという意見と、やはり見合わせたいと言う意見があった。狭いテントの中に子どもたちが密集するのはリスクがあり、役員の判断で中止とした。 役員からは昨年同様に完璧なコロナウイルス感染防止対策を行った上で是非とも実施したいとの要望があった。町内会の方々は町内会費を載せているも他の行事が中止となり多くの予算を繰り越している。その繰越し予算を子供福引きや各家庭福引きに充て、内容を充実させようとの合意を得た。 子供がいるご家庭は、子供の楽しめる場を工夫してでも持てればというご意見もあるが、開催の可否を決定する場では高齢の組長さんが多いので、感染の危険を冒してまでもという声が多く中止になった。
行事を縮小・簡略化して開催する	新しく町内会に加入された方や若い世代の住人との数少ない貴重なコミュニケーションの機会を失わない為にも最小限の形で存続をとる声も尊重しました！！ 学区の運動会やサマーナイトが中止になったことにより、昨年に引き続き役員のみで開催することにしました。昨年は中止の意見もあったが、行事継承のため少人数でも開催することに意義があると意思決定しました。 昨年同様、町内安全、子供達の健全育成を考慮、お地蔵さんの清掃、お寺さんのお語りのみ実施することとした(任意参加)。例年行っているテントを張ってのイベント、子供達の遊びについては中止とする。
そもそも簡素化したので例年通りの方法で実施	コロナ前(約5年前)より子供(小学生)がいなくなり、お地蔵さまを出してのお飾りはやめて、午後1時町内にある貸会議室で2~3時間、大人の集まりに変更しています。お地蔵さまが設置されている所でお寺様の僧侶が読経します(約30分)。この時、町内の大人が参拝します。 町内にもう10年開くくらい子供がおりません。お地蔵様の前に希望者が集まり、仏僧を招いて読経と法話をさせていただくという形式で行って参りました。昨年に続き、今年も同様に行う事になると思います。
コロナ以前から縮小傾向だった。これを機にやめるとの声も...	世話役内で地蔵盆をやめたいという人が多く驚いた。この機に無くしていきたい、というくらいの人。特に子供がいらない通りの役員にそのような人が多い。 昨年度より地蔵盆は開催しない旨決定しています。第1の理由は、この地域の子どもの数がとても少ないことです。加えて、各家庭の都合(塾や習い事、クラブ活動等)が優先され、参加しない方が多いこと、外孫さんの参加の方が多くこと等、開催の意味が薄くなってきています。そもそもおまつりするお地蔵様もありません。町内会の役員の負担ばかり増えており、開催をとりやめることとなりました。 コロナ禍が気になる。町内が小さく、子供たちもほとんどいない。高齢者が多く地蔵さんの移動(別祭壇)が大変である。
感染対策を行ったうえで開催	役員会で協議・決定された項目：①コロナ感染防止の為、お寺の本堂内で数珠廻し・ゲーム・アトラクションは実施しない。②お寺の庭園内でマスク着用の上、お菓子配り、ビンゴ抽選実施。③お地蔵さんへは距離をとって般若心経を唱えて参拝。④町外居住の「外孫」へは今年招待案内を出さない。⑤町内会員への福引を実施しない。町内会員からの地蔵盆御供も依頼しない。 ・子供と大人の参加する時間を別々にする。 ・マスク着用、大きな声を出さない。 (2年続けて止めることはできないから、工夫して実施する)
中止... 今後への不安	本年の開催にあたり、世話役間の話し合いや準備作業の分担などを検討した。昨年度の中止に鑑みて、例年通りのプログラムの再検討を重点的に行い、コロナ禍を前提とする、「縮小版地蔵盆」とした。開催予定日までに5回程、世話役の会合を重ねる事とします。行事の限定と時間管理のために世話役のコロナ禍対応担当者を決め、感染予防対策管理票で地蔵盆参加者の協力とチェックシートの整備を行う。予防対策として【手洗い⇒アルコール消毒⇒検温健康チェックシート⇒チェックシートの検証と確認】を参加者全員について把握し、経過の報告を徹底して、開催を宣言した。 私たちの町内会の子ども、赤ちゃんから小学6年生全員で4名(世帯数74件)。世相の通り高齢者増です。数年前から、地蔵盆は子供の為という事ばかりでなく、町内を守って頂いている「町内のお地蔵様のため」という考えで取組み、町内の人達にも伝えてきましたが、昨年中止、今年も中止ということになりました。あらゆる行事が中止に追い込まれ、まだ続くコロナ感染！各町が人の交流ということに対して倒壊寸前！お地蔵様のお世話役の人選も難しく、私の子供の頃は、大きな行燈や小さな行燈も皆で作れ書いた。町内全員で楽しんだ。それも2日間一杯楽しんだ。楽しい思い出が忘れられることなく浮かびます。新しい家が建ちマンションが出来る。お地蔵様のお付き合ひだけでなく町内会がどうなっていくのか心配です。 開催するか否かのアンケートを5月末に実施し、開催しないと6月上旬に決定しました。うちの町内では2日目のお昼ごはんは世話係の人が作ってくれたカレーライスを食べています。さすがに大人数での飲食は不安という声が多く、中止すれば、来年度再びカレーを作る事が難しくなるのでは？という声もありました。

壬生大念佛狂言

京都市中京区壬生柳ノ宮町

壬生狂言とも呼ばれる。台詞を用いずに演じる無言劇である。演じられるのは壬生寺(律宗)境内の大念佛堂であり、安政3年(1856)の再建である。「本舞台」や「橋掛り」に加え、「獣台」、「飛び込み」、「四つ綱」といった独特の構造を備えている。

壬生狂言は正安2年(1300)、円覚十万人上人導御によって創始された。上人の教えを聴こうと大勢の人々が集まったので、上人は里の人々に身振り手振りをさせ、念仏の教えを説いたことが壬生狂言のはじまりであると伝えられている。

初期の演目は、「猿」・「桶取」・「賽の河原」といったものであった。いずれも壬生寺の本尊地藏菩薩の利益を説くものである。江戸時代中期以降、壬生狂言は演劇的にも発展し、独自の演目だけでなく、能・狂言と題材を同じくする演目も演じられるようになる。しかし、演目はいずれも仏教の教えを伝えるものとされており、無言という芸態とともに、宗教性が芸能性と一体となって伝承されているのである。

現在は、30演目が「壬生大念佛講」の人々によって演じられている。春・秋・節分に公開されており、特に春の公開は「壬生大念佛会」という法要の、昼の勤行にあたる。

令和2年(2020)以降、壬生狂言も新型コロナウイルスの影響を受けた。令和2年度は、春を法要のみとして上演は中止、秋・節分も一般公開は中止した。令和3年度は、事前予約制とし、座席数を半減するなど万全の感染対策を施したうえで、春・秋ともに公開が行われた。その間、稽古は感染対策を徹底し、伝承を絶やさぬように継続させた。いずれも何事もなく終了した。困難な状況の中、受け継いだ伝統を守り、さらに後世に伝えていくため努力が続けられている。(壬生大念佛講)



炮烙割



土蜘蛛

〔実施時期〕 2月節分とその前日、
4月29日～5月5日、10月スポーツの日を含む土・日・月曜日

〔実施場所〕 壬生寺大念佛堂

〔伝承組織〕 壬生大念佛講

〔文化財〕 重要無形民俗文化財「壬生狂言」(昭和51年5月4日指定)、
重要文化財「壬生寺大念佛堂(狂言舞台)」(昭和55年1月26日指定)

えん がく じ ろく さい ねん ぶつ 円覚寺六齋念仏

京都市右京区嵯峨水尾

水尾は、愛宕山の南西麓に位置する山間集落で、水尾川の谷筋に沿って、大岩、岡ノ窪町、北垣内町、清和、竹ノ尻町、鳩ヶ巢、宮ノ脇町、武蔵嶋町の8町からなる。水尾を通る府道50号(京都市日吉美山線)は、右京区嵯峨から南丹市美山を結ぶ。この道は京都と亀岡を結ぶ鉄道が開通するまで、老ノ坂峠越えと並んで、山城国と丹波国を結ぶ主要な街道であり、水尾は愛宕山への参詣道の起点の一つでもあった。

地域住民の多くの檀那寺である円覚寺(浄土宗、嵯峨水尾宮ノ脇町)は、もとは水尾山寺と称した。清和天皇(850-880)が洛東の円覚寺で没すると、遺言により遺骨が水尾山寺から望む山の中腹に葬られ水尾山陵(嵯峨水尾清和)となった。円覚寺が応永27年(1420)に焼失したため、水尾山寺が寺号を継いだとされる。

水尾の地域住民によって伝えられている円覚寺六齋念仏は、空也堂系の「念仏六齋」として知られる。昭和58年(1973)には「京都の六齋念仏」として、市内に点在する15の六齋念仏のひとつとして重要無形民俗文化財に指定された。

六齋念仏とは、インドの仏典とされる『十誦律』『四天王経』などに示された「六齋日」に関わる習俗で、毎月8・14・15・23・29・30日の6日間は、精進潔斎して念仏を唱えるものである。日本では15～16世紀に、京都やその周辺で六齋念仏の講がみられるようになる。六齋念仏は、念仏や和讃などを唱えながら鉦や太鼓などを打ちながら芸能であるが、「京都の六齋念仏」は、これら念仏系の芸能だけでなく、能楽や歌舞伎など巷の芸能を取り入れて発達した「芸能六齋」ともいべき演目を伝承する地域もある。

現在、水尾では、8月14日の晩に円覚寺での奉納に続いて初盆を迎える個人宅で六齋念仏を奉納するほか(2021年はコロナ蔓延防止のため自粛)、8月16日は円覚寺施餓鬼会で奉納、8月24日の地蔵菩薩の縁日の前後には、円覚寺の地蔵菩薩への奉納に続いて向寺の地蔵さんに奉納する。自宅で葬式を出していた頃は、出棺の直前に奉納されていたように、水尾の六齋念仏は祖先を敬う信仰に支えられた、六齋念仏の心と形が伝えられている。

演目は、「発願文」「揃鉢」「抜鉢」「それ鉢」などがあり、これらは続けて上演される。手にした太鼓を軽やかに回しながらリズムカルに打つ技や、鉦を叩く導師が唱える念仏の節回しの妙が、見どころである。(福持昌之)



8月14日の初盆のお参り(2015)



8月16日の施餓鬼法要(2015)



8月22日の向寺の地蔵盆(2021)

- 〔実施時期〕 8月14日(初盆法要),
8月16日(施餓鬼奉納),
8月24日前後(地蔵盆奉納)
- 〔実施場所〕 円覚寺及び個人宅(初盆法要),
円覚寺(施餓鬼奉納),
地蔵前(地蔵盆奉納)
- 〔伝承組織〕 円覚寺六齋念仏講
- 〔文化財〕 重要無形民俗文化財「京都の六齋念仏」(昭和58年1月11日指定)

桂六齋念仏

京都市西京区下桂

下桂は桂離宮の南側に位置し、集落を山陰道が横切る。中世には下桂庄として、また鮎などを売り歩いた桂女の本拠地としても知られる。六地蔵のひとつ「桂地蔵」は、弘治4年(1558)の年紀を持つ『桂川地蔵記』には、応永23年(1416)以降に、桂で地蔵信仰が流行し、都人が連日のように風流を仕立てて参詣した様子がみえ、『看聞日記』にもその様子が記されている。その後、元禄6年(1663)に再興されたものが現在の地蔵寺(浄土宗)であるとされる。この桂地蔵前で盆の六地蔵めぐりの日に六齋念仏が行われている。

桂の六齋念仏については、宝暦5年(1755)の『六齋支配村方控帳』(干菜寺文書)に「下桂村 講中」とあり、また明治17年(1884)の『六齋念仏収納録』(空也堂文書)に「桂地蔵前」とある。このことから桂の六齋念仏は、芸能六齋へ展開することを許容しなかった干菜寺(光福寺)の管轄を離れ、六齋念仏のもうひとつの拠点である空也堂の管轄へと移った歴史がうかがえる。

桂の六齋念仏は、芸能六齋として多くの演目を有しており、さらに演奏に用いられる太鼓の種類も多く、特定の曲に締太鼓や鼓が使用されるなどの見どころがある。この桂の六齋念仏は、幾度も中断し、その都度復活を遂げてきた。明治42年(1906)10月、コレラの流行で主要メンバーが亡くなったことから中断したが、昭和11年(1936)9月に30年ぶりに復活した。その後も、戦争激化による中断があり、昭和25年(1950)に復活。昭和35年(1960)頃に中断し、昭和58年(1983)に復活した。そして、平成17年(2005)頃にも中断したが、令和元年(2020)8月22日、コロナ禍のなかでの縮小開催であるものの、地蔵寺の常設舞台での舞台回向が披露された。翌年(2021)は緊急事態宣言下であったため一山打ちは中止したが、8月19日に関係者のみで、下桂の御霊神社にて練習発表会を開催した。(福持昌之)



「土蜘蛛」(2020)



「猿廻し太鼓」(2021)

復活後の演目

舞台回向 (2020)	練習発表会 (2021)
発願念仏	八兵衛晒太鼓
お公卿踊り	豊年踊り
四つ太鼓	お公卿踊り
土蜘蛛	四つ太鼓
	越後さらし
	猿廻し太鼓
	結願

- 参考文献 ■ 田井竜一「桂地蔵前六齋念仏—その特質と伝承をめぐって」(京都市立芸術大学「伝音アーカイブズ」2007年)
■ 藝能史研究会編『京都の六齋念仏調査報告書』(京都六齋念仏保存団体連合会, 1979年)

- 〔実施時期〕 8月22日
〔実施場所〕 桂地蔵寺(地蔵盆の舞台回向)
〔伝承組織〕 桂六齋念仏保存会
〔文化財〕 重要無形民俗文化財「京都の六齋念仏」(昭和58年1月11日指定)

ちよんの はじ 鉦 始 め

京都市上京区七本松通今出川上る

鉦は、斧で粗く削った材木を平らに整える刃物で、建築を始める最初の工程を象徴する大工道具である。関西では「ちよんの」とも呼ばれる。平安時代の貴族の日記「中右記」の承徳元年(1097)12月2日条に小堂を建てる際に「手斧始」の儀式が行われたとある。のちに、大工が新年を迎えた仕事始めの儀式として行われるようにもなった。京都では昭和初期までは、1月2日に市内各地で行われていたという。その後、大工の労働歌である木遣音頭を伝えるため、大工の棟梁らによって、昭和43年(1968)4月に番匠保存会が結成された。翌44年から、千本釈迦堂(大報恩寺、真言宗智山派)の2月の節分(おかめ節分)で木遣音頭を披露してきた。鉦始めの儀礼は、占易の名家と謳われた松浦久信の建築儀礼解説書『匠家故実録』(享和3年(1808)自序)の記述をもとに復元し、昭和56年(1981)から令和2年(2020)まで、太秦広隆寺で鉦始めを行ってきた。コロナ禍による中断を経て、令和4年(2022)からは千本釈迦堂で、鉦始めを行っている。

1月2日は、早朝から本堂前に祭壇を組み、その前に長さ6mの棟木を設置する。棟木は西側が元(根元)、東側が末である。その前には注連によって結界が張られ、その西側に大工道具一式、東側には槌が飾られる。午前10時、山門前から本堂まで棟梁を先頭に、弥栄雅楽会の楽人3名(笙・箏・横笛)、行司、一の番匠、二の番匠、脇司2名、小匠、音頭取、先導役、そして木遣音頭の「ゆりもち」を歌う音頭衆が続く。

本堂前では、まず「墨矩の儀」が行われる。行司が脇司2人に曲尺と墨壺と墨差しを渡し、脇司は棟木の両端に置く。次に、一の番匠と二の番匠が棟木の東西に分かれ、曲尺で水平を測る所作をする。続いて「墨打の儀」が行われる。小匠が一の番匠の墨糸を持って二の番匠に渡し、一の番匠が墨糸を弾いて墨を打つ。小匠が墨糸を戻すと、続いて二の番匠も同様の所作を行い、脇司が道具を片付ける。次に「鉦打の儀」が行われる。行司が小匠に鉦を手渡し、小匠は棟木の中央に立てる。そこに棟梁が登場し、西側の元、中ほど、東側の末で各3回、鉦を打つ。鉦を中央に立てて棟梁が退出し、小匠が鉦を片付ける。次に「清鉦の儀」が行われる。行司が小匠に槍鉦を手渡し、小匠は棟木の中央に置く。そこに、一の番匠が行き、元、中ほど、末で各3回、槍鉦をかけた後、中央に置いて一の番匠が退出し、小匠が片付ける。次に、音頭取、先導役、音頭衆が祭壇と棟木の間立ち、木遣音頭の「たぐり音頭」を歌う。歌の途中で、脇司2人がそれぞれ槌を持って棟木の元と末へ行く。棟梁が棟木の中央あたりに立ち、脇司が槌で棟木を打つ(槌打ち)。これは棟上げで行われる「棟槌の儀」を取り入れたものである。そして、「金鶏鳥」「祝歌(1~3番)」を歌い、手打ちとなる。番匠保存会の会長の挨拶の後、供物の餅が参列者に配られる。最後に、結界の四隅と中央を、洗米と塩、神酒で清められる。



行列(木遣音頭「ゆりもち」)



鉦打の儀



木遣音頭

- 〔実施時期〕 1月2日
〔実施場所〕 大報恩寺(千本釈迦堂)
〔伝承組織〕 番匠保存会
〔文化財〕 京都市登録無形民俗文化財「木遣音頭」(昭和58年6月1日登録)

日野法界寺の修正会と裸踊り

京都市伏見区日野

修正会とは、前年の罪穢を悔い改め、新年の人びとの安穩一五穀豊穰、万民快樂、無病息災、所願成就を祈願する正月行事である。京都市伏見区日野西大道町にある法界寺では、元旦の午前0時の開白法要から二七日(14日間)、本堂の薬師堂にて修正会が行なわれ、結願日にあたる1月14日夜の結願法要で、阿弥陀堂にて地域の男性たちによる裸踊りが催される。

檀家制度を採らない法界寺では、旧坊にあたる井脇坊、梅本坊、照行坊、真乗坊の4軒(かつては8軒)が修正会を支えてきた。この家々は、本堂の幕の準備、大根・牛蒡・人参を束ねた供物「生御膳」の支度、結願後に授けられる牛玉宝印が捺された護符を挿す柳の枝の採取、裸踊りの進行など様々な面でこの行事に関わっている。

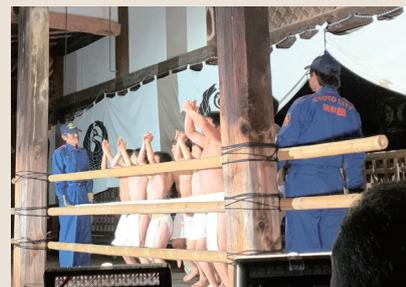
結願日の午後7時頃より寺の燈明が灯り、庫裏から薬師堂へ十数名の僧衆が法螺貝の音とともに進列し結願法要が始まる。法要と並行して阿弥陀堂の広縁では、寺の井戸水で水垢離を行い寺族手製の越中褌を締めた日野の男性たちが押し合い、両手を頭上に掲げながら手を打合わせ「頂礼、頂礼」と掛け声を発する。

裸踊りを終えた頃、僧衆が般若心経を唱えながら薬師堂の縁を行道し、柳の枝で参詣人の頭を撫で、加持を行う。これを終えた後、僧衆は薬師堂から退堂し修正会が終了する。

日野裸踊と同様に、正月修正会に男性が褌を行い裸形になる祭礼(裸祭)では、年占の要素を持つことから散布した呪物を奪い合い押し合うという形態がみられる。また、『日次紀事』(1679年)によれば、1月15日に「日野ノ厭合」として「日野一村ノ土人、今日暮ニ及テ法界寺ニ集リ衣服ヲ脱去、各々裸テ堂ニ登リ西東二分列リ、互ニ相厭ス、遂ニカヲ尽シテ厭倒ニ至ル、其ノ勝方其ノ年耕種利ヲ得ルト云フ、是ヲ日野ノ厭合ト謂フ」と記されている事から、古くは東西に分かれ耕種の利ないし呪物(牛玉札)を巡って争われていた事がわかる。しかし、現在の法界寺では安全性の観点から1998年頃より呪物を撒いていない。その代わりに、加持を求めて訪れる人びとに確実に手渡すように配慮されている。

同じく安全性という観点で、2021～2022年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため修正会の一部である裸踊りを執り行わなかった。二七日の間、住職と副住職は薬師堂にて本尊の薬師如来に対し諸祈願を行う儀礼を厳かに執り行い、再び日野の人びとが集える日を静かに待つ。(谷岡優子)

参考文献 ■ 大阪女子大学近世文学研究会編
『日次記事—本文と索引』(前田書店、1982年)



阿弥陀堂での「日野裸踊」(2020年)



薬師堂での参詣者へのお加持(2020年)



コロナ禍での修正会。結願法要は午後2時から行われた(2022年)

- 〔実施時期〕 1月14日
- 〔実施場所〕 法界寺(真言宗醍醐派別格本山)
- 〔伝承組織〕 日野裸踊保存会
- 〔文化財〕 京都市登録民俗無形文化財「日野裸踊」(昭和59年6月1日登録)

伝統行事に欠かせない「味噌」を求めて

令和3年(2021)11月24日、京都市右京区京北^{けいほく}で地元素材を活かした味噌^{やまぐに}を製造・販売している有限会社山国さきがけセンターを訪れたのは、左京区の北白川伝統文化保存会の役員の2人。彼らは、北白川天神宮^{きたしらかわてんじんぐう}での、北白川高盛御供(京都市登録無形民俗文化財)に使う味噌を探して、片道1時間の道のりをはるばるやってきた。

高盛御供とは、高盛、朝御饌とも呼ばれ、地元の男性が夜を徹して小芋(里芋)、大根なます、きざみ^{すゝめ}鰯などを直径24cmほどのカワラケに、円錐形に高く盛り付けた特殊神饌を作るものである。それらは、翌朝の還幸祭において、三幅前垂を腰に巻いた白川女が、頭上の槽に載せて運び、奉納する。

小芋を50cmほども高く積むのは容易ではない。加工しやすいよう、さっと湯がいた小芋を、上に行くほど小さいものを選んで石垣のように20数段も積上げていく。その土台となるのが味噌である。この味噌は、麴^{こうじ}の粒が少なく滑らかで、水分が少ないものでないといけない。さらに調理の際には、炭火にかけた丸底の銅鍋^{どうなべ}に味噌を入れ、杓子^{しゃくし}で縁^{ふち}にすりあげるようにして、水気を飛ばす。天候にも左右されるが、毎年8~10kgの味噌を4~5時間かけて、使えるように準備する。なかなかの重労働である。

かつては西京味噌(上京区)や、出町にある田辺宗^{でまち たなべそう}といった製造元が別注^{ちゅう}に応じていたが、今は職人がおらず対応できないとのこと。愛知県からは八丁味噌^{はちちょう みそ}を取り寄せてみたり手を尽くしたが、まだ既製品で使える味噌には出会っていないという。ところが、このひと月前、保存会の役員が地元信用金庫の主催する見本市を訪れたところ、山国の味噌が^こ出展されており、「来ていただいたら製造担当者が相談にのります」という話になり、今回の訪問に結びついた。

約40年前に地元のJAが開発した味噌は、平成13年(2001)のJAの統廃合を機に、山国さきがけセンターが製造・販売を引き継いだ。商品名は「まごころみそ」。大豆も米麴も、自家栽培で、平成22年(2010)からは京都市の学校給食にも使用されている、いわば京都のふるさとの味である。今回、試作品として用意されたのは、「まごころみそ」を目の細かい濾し器を通して、粒を除去したもの。味噌カステラなどには、こういった濾した滑らかな味噌を使うという。味噌の具合を確かめた2人は、「うん。粒の少なさは、これくらいでいい。ただ、もう少し水気を飛ばしてもらえるとありがたい。」と目を細めた。

コロナの影響で、この行事も令和2年(2020)と翌年は中止となったが、次の年の開催を目指す取組は、もう始まっている。(福持昌之)



円錐形に盛られた神饌



銅鍋で味噌の水気を飛ばす



白川女による頭上運搬の様子

崇仁の祭り囃子

— 京都芸大の公開講座から —

西京区大枝から、京都駅東側の下京区崇仁への移転工事が進む京都市立芸術大学。令和4年(2022)2月11日、この京都芸大の日本伝統音楽研究センターでは、崇仁に伝わる祭り囃子の公開講座「崇仁の祭り囃子—もう一つの六斎念仏」を催した。竹内有一教授が、崇仁お囃子会の協力を得て研究会を重ねた成果が、お囃子の演奏も交えつつ披露された。

崇仁の祭り囃子について概観すると—江戸時代、この付近は柳原村と呼ばれていた。京都近郊の六斎念仏の講(団体)が競演した近世期の清水寺の記録に「柳原六斎」が登場していることから、六斎念仏の講があったことは確かであるが、いつまで活動していたかは不明である。一方、新日吉神宮(東山区)の祭礼に、明治初年頃から、船鉦2基とダンジリ(十二灯のこと)4基が作られ、巡行するようになった。祭りの囃子は「六斎囃子」とも呼ばれており、鉦上で演奏するほか、「四つ太鼓」「六つ太鼓」「獅子舞」などを、お地蔵さん前の仮設舞台で演じていたという。しかし、これらは昭和33年(1958)頃に中断してしまった。1990年代、地域の有志が古老に聞き取り調査を重ね、平成5年(1993)にお囃子が復興された。また、京都府の郷土芸能保存振興事業補助金を活用し、平成10年(1998)に西濱組船鉦、平成11年(1999)に巽組十二灯、平成13年(2001)に碇組船鉦を復元することができた。のちに、これらは「崇仁船鉦・十二灯装飾品(一式)」として京都市の有形民俗文化財に登録された(平成18年3月登録)。

一方、京都の六斎念仏は、念仏を基調に太鼓を加えた「念仏六斎」のほか、能や歌舞伎、長唄など時代の流行の芸を取り入れて展開した「芸能六斎」がある。六斎とは、1か月に6日間の持斎日の意味であったが、今は8月に活動が集中しており、盆に家々を訪れる棚経や、地域の寺社での芸能六斎の奉納行事(「一山打ち」という)が主なものである。そして、芸能六斎を伝える六斎念仏に共通するのが演目としての「祇園囃子」である。

公開講座では、吹田哲二郎氏により、①祇園祭の祇園囃子(演目名「流し」)が45小節である、②六斎念仏の「祇園囃子」は、壬生・久世・中堂寺など44小節のグループと、千本・小山郷・嵯峨野・梅津・西院などの28小節のグループにわかれる、③崇仁のお囃子も、千本などの短縮バージョンの「祇園囃子」の系統といえる(ただし33小節)、と報告があった。まさに、京都の民俗芸能は、互いに影響を与えあいながら、発展してきたといえる。

今回の公開講座では、柳原六斎念仏の流れを組むと思われる崇仁のお囃子が、六斎の曲としての「祇園囃子」を伝承していることが明らかになった。また、約30年ぶりに祭り囃子が復元されたことを振り返る機会になったことも意義深い。いったん途絶えた民俗芸能を復活させることは容易ではない。子どもの頃に体験した地域の祭礼、お囃子などが、故郷にしかない思い出として心に強く残り、崇仁ではそれが民俗芸能復活の原動力となり、貴重な資料になった。それらが結び合っこそ、地域の活性化につながるのではないだろうか。(福持昌之)

- 参考文献 ■ 『崇仁地区祭礼調査概要』京都市文化観光局文化財保護課、1984年
■ 竹口等「崇仁地区の新しいまちづくり —その前夜 祭囃子に引き寄せられて—」京都文教大学人間学研究所紀要『人間学研究』2号、2001年



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

崇仁の祭り囃子

2022年 2月11日

視聴無料 金・祝
申込不要

12:00~13:30

— もう一つの六斎念仏 —

京都市立芸術大学(京都芸大)の移転先である京都市下京区の崇仁学区では、5月の崇仁春まつりの中心行事として「船鉦」と「曳山」が地域とその周辺を巡行します。そこでは「だんじり」と呼ばれる囃子が用いられます。また、この地域にはかつて六斎念仏が行われていたという口伝やその道具が遺存します。祭り囃子の現状を紹介しながら、祭り囃子と六斎念仏との関係を考察します。

出演 竹内 有一
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授

竹口 等
京都文教大学名誉教授

吹田 哲二郎
千本六斎会

福持 昌之
京都市文化局文化芸術部文化財保護課

崇仁お囃子会
「だんじり」他 演奏(事前収録)

主催 京都市立芸術大学 京都市西京区大枝東御所1-2-6 ホームページ <https://www.kcuu.ac.jp>
協力 崇仁お囃子会、崇仁自治連合会、NPO 新たな歌にまちづくりの会、京都六斎念仏保存団体連合会
共催 東洋音楽学会西日本支部
問合せ先 京都市立芸術大学事務局連携推進課(事業推進担当) TEL 075-334-2204 (9時30分~17時)
E-mail public@kcuu.ac.jp